

受験番号	番
------	---

令和3年度

精道三川台高等学校 第1回入学試験問題

国語

注意

- 1 「始め」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は中にはさんであります。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、受験番号を問題冊子および解答用紙の受験番号欄に記入しなさい。
- 4 問題は \square ～ \square で、1ページから11ページまであります。
- 5 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 6 「やめ」の合図で、鉛筆を置きなさい。
- 7 試験終了後は、問題冊子および解答用紙を机の上に置いたまま退出しなさい。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「私（先生）」は粕浦かすうらという漁師町で暮らしている。ある日、少年たちが遊びで捕っていた鮒ふなを夕食のおかずにするため買い取った（この地域では鮒をおかずとして食べていた）。その三日後、少年たちが「私」の家に鮒を売りにやってきた。

窓の雨戸を叩きながら、先生起きせえま、と少年たちが呼んでいるのである。私は起きあがって窓をあけた。外には五人の少年たちが、(ア) センメン器やバケツや空かんなどを持って立って、私を見ると一列 (イ) ジュウタイに並んだ。先頭にいるのは※₁「千本」の長ちようで、※₂かんぶりの顔も見え、みんな泥まみれのはだしであった。

「鮒とってきただよ」と長が云った、「買つてくれせえな、先生」

私はかれらの期待に満ちた注目をあびて、自分に拒絶する勇氣のないことを悟り、かれらを※₃勝手口へ廻まわらせた。そこでもかれらは一列に並び、①ひとりひとりが私に向かって自分の鮒に値を付けさせた。そのときになって初めて、寝起きのぼんやりした私の頭が、かれらの※₄奸悪かんあくな計略を理解した。つまり、まとめて売れば安くなるが、一尾ずつなら安い値踏みはできない、という(ウ)狙ねらいなのだ。

「ほれ、みせえま」とかれらはそれぞれの鮒を私に②誇示こかしした、「こんなにえつけえだ、※₅五寸くれえあるだえ、先生」

そして「※₆しよつから」へゆけばこれ一尾で※₇一かんは取られる、と云って互うなずいに領うなずき、肯定しあうのであった。私はそこでもまた自分がわなに落ち、縛りあげられたことを知った。私はかれらの誘導にしたがって、値段を付け、それらを買取った。

「いいいさ」と私はかれらの去ったあとで自分に云い聞かせた、「味噌煮みそににしておけばもつからな、当分おかずに困らないで済むわけだ」

私はまえの味噌煮を井へ移して、それらの鮒を新しく味噌煮にしかけた。

人は信用しないかもしれない。私自身もこれを書きながら、たぶん人は事実だとは信じないのだろうと思うのであるが、少年たちはその儲け仕事^{もち}があまりにたやすく、かつ確実であることに昂奮^{こっかん}と情熱を感じたらしい。二三日するとまたやって来て、さもうれしそうにはしやぎながら、窓の戸を叩いた。

「Ⅲ並べつてばな」と長の云うのが聞こえた、「おんだらが先だぞ、押すな」

拒絶されようなどは[※]。寸毫^{すんごう}も疑わず、確信そのもののような少年たちの顔を見て、それだけで^③私は自分の敗北を認めた。——ここまで読まれた方は、もはや小悪魔どもが私を放さないだろう、と想像されるにちがいない。私にしても、仮にふところがもつとあたかであつたら、容易にかれらの手から逃れがたかつたろうと思う。人は[※]9 黄白^{こうはく}の前には、しばしば恥を忍んで屈しなければならぬものだ。少年たちが四度めに襲撃をかけて来たとき、ふところの窮乏^{きゅうぼう}という現実に助けられて、私はきつぱりと鮎の買取りを拒絶した。するとそこに、^④まったく予想しない事が起こって、私をおどろかせた。

私に拒絶されて、少年たちは明らかに失望し、途方にくれた。かれらは顔を見交わし、先生が駆引しているのではないかと疑い、そうでないことを認めるともつと失望し、どうしたものかというふうに、それぞれの手にした器物の中の鮎を見まもつた。

「みんな」と長が急に云った、「それじゃあこれ先生にくんか」

くんかとは、贈呈しようか、というほどの意味である。途方にくれ、落胆していた少年たちの顔に突然、生気がよみがえつた。それは囚われの縄を解かれたような、^{※10}妄執^{もうしやく}がおちたような、その他もろもろの^{※11}羈絆^{さはん}を脱したような、すがすがしく濁りのない顔に返った。

「うん、くんべ」と少年の一人が云った、「なせ、これ先生にくんべや」

「くんべ、くんべ」

「Ⅳ先生、これ先生にくんよ」とかんぷりが云った、「みんな、勝手へいってあけんべや」

私は自分の大きな^{※12}過誤を恥じた。

少年たちに^{※13}狡猾と^{※14}貪欲な気持を起こさせたのは私の責任である。初めに私は「その鮓をくれ」と云えばよかつたのだ。売ってくれと云つたために、かれらは狡猾と貪欲にとりつかれた。私のさみしいふところを^{※15}搾取しながら、かれらも

その期間、かれらは^{※16}貪婪な漁夫でありわる賢い商人だつたからだ。私は深く自分を恥じた。

「先生にくんよ、か」と私は口まねを試みた、「これ先生にくんよ」

そう云つたときの、すがすがしく、よみがえつたような顔つきや動作を思いうかべながら、^⑤私は深く自分を恥じた。

〈「青べか物語」山本周五郎〉

※1 「千本」の長：「千本」という釣舟を出す宿屋の息子のこと。あとの「長」も同じ。

※2 かんぶり：長の高級生のあだ名。

※3 勝手口：台所に行く出入り口。

※4 奸悪：心がゆがんでいるさま。

※5 五寸：「寸」は長さの単位。一寸は約三・〇三センチメートル。

※6 しよつから：鮓を甘く煮た料理を売っているつくだに屋の名前。

※7 一かん：「かん」はお金の単位。ここでの「一かん」は三百円程度と思われる。つまり「しよつから」というつくだに屋では三百円くらい出さないと同じような鮓は手に入らないということ。

※8 寸毫：ほんのわずか。

※9 黄白：お金。

※10 妄執：理由や根拠のないことに執着すること。

※11 羈絆：つながりとめるもの。きずな。

※12 過誤…あやまち。

※13 狡猾…わるがしこくずるいこと。

※14 貪欲…欲深くむさぼること。

※15 搾取…ここでは「少ないものをしぼり取る」ということ。

※16 貪婪…非常に欲が深い様子。

問一 Ⅱ線部(ア)ㄱ(ウ)のカタカナを漢字に、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

問二 Ⅰ線部①「ひとりひとりが私に向かって自分の鮎に値を付けさせた」とあるが、少年たちがこのような行動をとったのはなぜか。「ㄱから」に続くように、文中から十六字で抜き出して答えなさい。

問三 Ⅰ線部②「誇示した」の文中での意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 強引に勧めてきた
- イ 自慢して見せた
- ウ 高く売ろうとした
- エ 大きさを強調した

問四 Ⅰ線部③「私は自分の敗北を認めた」とはどういうことか、説明しなさい。

問五 Ⅰ線部④「まったく予想しない事が起こって」とあるが、「まったく予想しない事」とはどういうことか説明しなさい。

問六 文中の に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 幸福ではなかった
- イ 欲望に取りつかれた
- ウ 失敗の連続だった
- エ 有頂天になった

問七 ㄱ線部Ⅰ～Ⅳの表現について説明したものとして最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア Ⅰは、「先生」に鮎を買ってもらったことを申し訳なく思う少年の気持ちが表れている。

イ Ⅱは、少年たちから強引に鮎を買われた「私」の腹立たしい気持ちが表れている。

ウ Ⅲは、今日こそ「先生」をだましてやろうという少年のずる賢い気持ちが表れている。

エ Ⅳは、さまざまな束縛から解放された少年たちのすっきりとした気持ちが表れている。

問八 ㄱ線部⑤「私は深く自分を恥じた」とあるが、「私」が「深く自分を恥じた」理由は何か。次のA、Bに言葉を当てはめて文を完成させなさい。ただし、Aには二十五字以内、Bには二十字以内の言葉が入ります。

少年たちは

A

のに、自分が鮎を買い取ったことよって少年たちに

B

から。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

梅雨末期に見られる集中豪雨や台風がもたらす増水で、メダカが水田地帯から下流の①河川に、場合によってはさらに海まで流されることは決して珍しくなかったはずである。洪水になるほどでなくても、少々まとまった雨が降れば、小さなメダカが水田や水路からあふれた水とともに河川へと流れ出ることはあつたはずだ。

自然な河川であれば、時として大きく②蛇行し、早瀬もあればよどみもある。短く集水域もそれほど広くない日本の河川では、増水も短期間でおさまる。支流同士が落ち合うような場所では流れが③緩やかになる。そこからまたメダカは上流をめざす。メダカは海水でも生きられるので、海まで流されたとしても再び川をさかのぼることが可能である。同じ湾内に注ぐ川であれば、流された先から別の河川をさかのぼることもあり得る。こうして、同じ水系、同じ湾内に注ぐ河川間で、メダカは交流することができただろう。増水はメダカの出会いの機会でもあつたに違いない。このような交流によって、地域個体群の遺伝的なまとまりが形成されてきたのだと考えられる。

河川は、メダカが恒久的に生息する場所とはいえないが、水系を通じてメダカの交流を④ホシヨウしていたという見方もできる。生物の側から見れば、洪水もまた必要な自然現象の一つなのである。洪水があることを前提に適応してきた歴史があるからだ。

A、メダカにとっては現在の生息地だけが重要なわけではない。流されることもまた、健全な地域個体群を⑤維持していく上で⑥フカケツだったのである。メダカをはじめとする生物は、本来⑦そのようなネットワークの中で生きのびている。

B、すでに見てきたように、私たちはこの数十年の間にメダカの生息できる環境をどんどん奪ってきた。その結果、今やその生息地は「面」から一部の水系だけという「線」へ、さらにその中でも条件のよい限られた場所にだけしか生息できない「点」へと、追いつめてしまった。

そのわずかな生息地からも、メダカは流され河川を下る。ところが⑧流された個体が、元の生息地や別の生息地に戻ることは、現在では⑨不可能である。河川もまたコンクリートで固められ、堰やダムで区切られ、直線的で段差が大きくなってしまっているからだ。いまやメダカたちは水系をさかのぼりたどり着いた先で、わずかなわき水やたまり水に運命をゆだねながら、

代を重ねるしかない。メダカの地域個体群は分断され、いくつかの小集団が孤立して細々と生き残っているというのが現状だ。それぞれの生息地がいつ失われるかわからないという危険性や、干上がった病気によって II 滅んでしまうかもしれない危険性があることに加え、孤立にはいくつも落とし穴がある。

へ「メダカが消える日」小澤祥司

問一 Ⅱ線部(ア)、(イ)の漢字は読みをひらがなで書きなさい。また、(ウ)、(エ)を漢字に直しなさい。

問二 Ⅰ線部①「蛇行」、Ⅰ線部②「維持」の本文中での意味をそれぞれ答えなさい。

問三 A、Bに当てはまる語を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア そのうえ イ ところが ウ いわゆる エ つまり

問四 I、IIに当てはまる語を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ほとんど イ わずかな ウ あっけなく エ 少しは

問五 Ⅰ線部③「そのようなネットワーク」とは、メダカにとって、どういうことを指すのか。六十字以内で説明しなさい。

問六 Ⅰ線部④「流された」 Ⅱ 不可能である」とあるが、その理由を示す一文の最初の五文字を答えなさい。

問七 「メダカの問題」を通して、筆者は大きな視点で、どういうことを読者に伝えようとしていると思われるか。「環境」と「種」という語を用いて、五十字以内で答えなさい。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

これも今は昔、ある僧、人のもとへ行きけり。酒などすすめけるに、※¹氷魚
初物として出回りはじめたので
 はじめて出で来たりければ、あるじ^①珍しく思ひて、^②もてなしけり。あるじ用の事ありて、
再び僧のいる座敷へ戻って来てみると
 内へ入りて、また出でたりけるに、この氷魚の殊の外に少なくなりたりければ、あるじ、い
客の方から何の挨拶も無かりに、話題にするのは気がひけて
 かにと^③おもへども、いふべきやうもなかりければ、物語し^④みたりける程に、この僧
ふっと飛び出したので
 の鼻より氷魚の一つふと出でたりければ、あるじ^⑤あやしう覚えて、「その鼻より氷魚の出で
 たるは、いかなる事にか」といひければ、取りもあへず、「この比の氷魚は目鼻より※²降り
①ウさぶらふなるぞ」といひたりければ、^⑤人皆、「は」と笑ひけり。

(宇治拾遺物語)

※1氷魚…ひうお。鮎の稚魚。

※2降りさぶらふなるぞ…飛び出してくるのですよ。

問一 Ⅱ線部(ア)～(ウ)の歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直して答えなさい。

問二 Ⅰ線部①「珍しく思ひて」とありますが、どんなことを珍しく思ったのか。二十字以内の現代語で説明しなさい。

問三 —線部②「もてなしけり」、—線部④「いひたりければ」とありますが、この行動はだれの行動ですか。それぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ある僧 イ 氷魚 ウ あるじ エ 皆

問四 —線部③「あやしう覚えて」の現代語訳を答えなさい。

問五 —線部⑤『人皆、「は」と笑ひけり』とありますが、皆が笑ったのはなぜですか。その理由を現代語で説明しなさい。

問六 本文の内容に合うものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あるじが酒を進めたが、ある僧は飲まなかった。
- イ あるじが用事で出た後、食膳の氷魚が減っていた。
- ウ ある僧はあるじの目の前で氷魚を食べてしまった。
- エ あるじとある僧の雑談が面白くて人々は皆笑った。

四 次の二つの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

歌人の与謝野晶子は、夫の鉄幹とともに熊本県人吉市を訪れたことがある。球磨川くまの川下りも楽しんだようで、そのときに詠じた歌は、一緒に川面にいるような気持ちにさせてくれる。

〈大ぞらの山の際より初まると同じ幅ある球磨の川かな〉

山と山の間にある大きな空。それと同じだけの幅があるという球磨川の雄大さが目に浮かんでくる。川沿いのまちの美しさは池に浮かぶハスにたとえられている。

〈川あをく相良の町の蔵しろし蓮はすの池にうかべるごとく〉

広々とした川の、岸辺との境目すらなくなった映像がテレビに映っていた。おととい夜からの豪雨で球磨川が氾濫し、川辺のまちが水につかってしまった。行方不明や心肺停止などの報道が相次いでいる。

熊本県のあちこちで観測史上最多の雨量を記録した。一時間ほどのあいだに自宅が二メートル水没したという人の話が本誌西部本社版の夕刊にあった。あふれる水も崩れる土砂も、あつという間の出来事だったのだろう。救出を待つ人たちがいる。

梅雨の趣でもうとうしさでもなく、梅雨のむごさを強く感じるようになった日本列島である。思えば三年前のきようは九州北部が豪雨に、一昨年の明日は西日本が豪雨に見舞われている。「数十年に一度の雨」を、我がこととして考えねばならぬ季節である。

避難生活の難しさは常にあるが、今年は感染対策にも気を配らねばならない。被災地のつらさをウイルスも配慮してくれないかなどと、せんないことをかんがえてしまう。

(二〇二〇・七・五 「朝日新聞」)

六十一年前、五千人を超える死者・行方不明者が出た台風を、歌人の久保田安治さんはこう詠んだ。

〔伊勢湾台風の罹災者なほ屋根にあり宇宙ステーション軌道にのる日も〕

この年、旧ソ連は探査機を月に送り、裏側の写真撮影に成功している。人類が科学技術を進歩させ、宇宙に夢を描く一方で、自然の猛威にはなすすべもない。一首はその対比を詠んでいる。

局地的に、長い間、猛烈な雨をもたらす。積乱雲が連なる「線状降水帯」という言葉を近年、よく見聞きするようになった。ここ数日、大雨が各地を襲い、川があふれたのもこの現象によるというが、発生する時刻、場所の予測は困難らしい。

熊本県南部の豪雨では、未明に球磨川が危険水位に達した後になって「大雨特別警報」が出され、避難指示が発令された。線状降水帯が迫るのを想定できなかったという。

天気予報の精度がぐんと上がったのは誰もが認めるところだろう。英知を集めてもなお、連なる雨雲の動きは読めず、〔罹災者なほ屋根にあり〕の悲痛なさまは今昔、変わらない。

このところ列島では毎年のように大水害がある。それがいつ、どこで起きるか、見定めがたい。避難指示を待たずに避難するなど身の守り方を人それぞれ考える時らしい。「読めない空」と向き合う日々がまだ続く。

(二〇二〇・七・一一 「長崎新聞」)

問一 二つの新聞記事の話題として共通することを、簡潔に答えなさい。

問二 次のうち、二つの新聞記事での文章表現において正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 韻文を引用して、話題に沿って表現している。
- イ 最初に意見を述べ、後に具体例を示している。
- ウ つながりを意識して、接続詞を多用している。
- エ わかりやすくするために四段構成にしている。

問三 二つの新聞記事を読んで、それに対するあなたの考えを一五〇字以上二〇〇字以内で書きなさい。

国語

解答用紙

兵庫県立

神戸

令 3 高 (1)

一

問一	(ア)	洗面
問二	一尾	縦隊
問三	伊	ねらい
問四	「私」は少年たちから鮒を買わざるをえないということ。	
問五	(例)少年たちが無料で鮒を「私」にくれたこと。	
問六	ア	
問七	エ	
問八	B	

二

問一	(ア)	かせん
問二	①	川の流が曲がりくねっていること。
問三	②	そのままの状態を保ち続けること。
問四	I	保障
問五	A	不可欠
問六	豪雨や台風による増水で、メダカが水田地帯で交流する。海に流さる。同じ水系。河川内	
問七	環境破壊が進むと、種の保存は難しい。	
問八	それらはメダカに限ったこと。種類での保存は、地球全体の問題である。	

三

問一	(ア)	おもえども
問二	氷魚が初物として	いたりける
問三	②	ウ
問四	④	ア
問五	不思議に(不審に)思っている。	さぶろう
問六	伊	
問七	あるじがいけないときに、僧は氷魚を食べたのに、この頃の氷魚は目鼻から飛び出るんですよといいわけをしたから。	

四

問一	豪雨での災害
問二	ア
問三	
問四	
問五	
問六	
問七	